

復興まちづくり計画策定へ向けた

第4回地区別懇談会

日時・会場：

令和3年12月18日(土)	13:30	鮎俣地区	鮎俣社会教育センター
令和3年12月19日(日)	9:30	中谷地区	さかもと青少年センター
令和3年12月19日(日)	13:30	西部地区	西部地区多目的集会施設
令和3年12月21日(火)	19:00	百済来地区	久多良木地区多目的集会施設
令和3年12月23日(木)	19:00	田上地区	田上社会教育センター
令和3年12月24日(金)	10:00	深水地区	深水生活改善センター
令和3年12月26日(日)	9:30	藤本地区	坂本中学校体育館
令和3年12月26日(日)	13:30	中津道地区	坂本中学校体育館

○概要

事務局より、復興まちづくり計画についてのあらましの確認・質疑応答を行ったのち、第1回から第3回の地区別懇談会を経て取りまとめた、復興まちづくり計画案を基にグループワークによる策定への最終調整を行った。

(1) 事務局より説明

復興へ向けたこれまでの取り組み
復興まちづくり計画策定へ向けて
復興まちづくり計画の今後の取扱い

(2) 質疑応答

(3) グループワーク

復興まちづくりの目標の確認
復興に向けた地区の課題を確認
復興まちづくりプロジェクトの具体的な取り組み、地域の役割と行政の役割の確認

○質疑応答

《鮎帰地区 参加者：11名》

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

・特に重要な事項として、河川の整備、道路の安全性、避難所の話が出た。

・河川整備については、登俣川の真ん中に大きな岩が残っている。他にも何箇所も危険箇所がある。市でも調査は実施していると思うが、どういう方向性で対応していこうとしているのか、地域住民にはその内容が全然伝わってこないため、地域住民を交えて検討してもらえればと考えている。

・道路については、生活はできる状態になっているものの、修復が必要な場所が何箇所もある。水害で道路が陥没したり、路肩が崩れたりしている所が数箇所あるため、そろそろ何らかの対応を考えてもらいたい。災害が大きかった地区もあるためこれまであまり表立ってお願いをしてきていないが、この地区についても早めの整備をお願いしたい。

・避難所について、鮎帰小学校跡がこの地区の避難所になっているが、避難経路となる道路は路肩が崩れて車も通れない状況になっている。そのままの状況で修復してもまた道路が被災して避難できない状況になる懸念があるため、かさ上げを行うなど水害に強い道路づくりを進めてもらいたい。

・また、避難所については、簡易トイレが2つあるが、非常に簡単なものになっており、高齢者は用を足すことはできないのではないかと思う。建物内にトイレなどの設備を整備してもらいたい。

・昔、鮎帰の川にはヤマメを放流してヤマメ釣り大会を開催し、かなり大勢の人が集まっていた。途絶えてから20年近くなるが、災害という側面ばかりではなく、川を活かすような取り組みも検討してもらいたい。

・ライフラインについて、災害前は坂本駅中心に考えていたが、災害で分散してしまって病院もない状況である。なかなか買い物に行くようなところもないため、是非坂本駅を中心に復興を考えてもらいたい。河川の安全性向上について、最も重要なのは登俣川の岩の撤去による安全性向上である。そばには人家もあり人命に関わるため、早急に破碎または撤去する必要がある。

・道路の安全性向上について、鮎帰小学校跡が地区の第1次避難場所になっているが、災害を受けながら避難するのは危険であるため、早めに避難する必要があるがアクセス道路が壊

れたままになっている。ここを通過して避難しようとするれば二次災害に遭う懸念もあるためそこを何とかお願いしたい。

・避難所の確保と避難情報の伝達の部分について、第1次避難場所となっている鮎尾小学校跡の設備の充実が必要である。避難してきてもトイレは仮設のものしかなく、電球もあちこちが切れている。本日皆さんが履いているスリッパも何十年も前のものである。災害があつて避難してきても高齢者はどういったことになるか想像すれば、トイレや暖房施設などの充実が必要であると考えている。予算の都合などもあると思うが鮎尾にも配慮をお願いしたい。

・日光の棚田やイベントなどの活用については、地域の外への情報発信が重要になると考えている。テレビや新聞・ケーブルテレビなどに情報を提供し、報道してもらうことでイベントや祭りがあることを知ってもらう必要がある。

・ほたるは鮎尾の大事な観光資源であり、活用する価値があると考えている。地域振興会でも検討しながらまい具合に持っていければと思う。古屋敷や大平にほたるが乱舞するような年もあり、ほたるの卵を養って安定的なものにしていくように地域として努力していくことも考えられる。

・特産品について、復興商店街でのイベントに鮎尾振興会もテントを出して、柚子胡椒、シイタケ、里芋などを販売した。こういったイベントに参加することも重要だが、特産品を販売するルートづくりも大事になり、こういうものを中心に鮎尾の振興に繋がればと考えている。

・行き着く先は住民が安心して暮らせる里づくりであり、経済的にも、安全性の面でも安心して暮らせる里づくりを目指していければと考えている。

・意見交換のなかで最初に出たのが銀もくせいである。市指定となっているが、今は枯れてしまってなくなってしまった。新聞にも載っていたが、枯れる前に2本だけクローンを採取しており、これを今後どういう風に植えるのか場所を検討中である。枯らさずに管理するのは大変なため、新しくできる支所のところに復興のシンボルとして植えてもらえるようなことも考えられる。

・一番重要な課題は交通のアクセスである。現在、乗合タクシーは運行しているが、八代市内に直接行く便がなく、乗り換えが必要である。買い物については移動販売車で来るため不便はないが、病院への通院は本人が出向かなければならないため子どもや親戚が送迎している状況である。乗り換えは高齢者にとっては非常に不便である。高齢化が進むと免許返納を考える方も増えると思うが、免許がなければ生活できないため八代市に引っ越してしまうなどといった形で過疎化が進むのではないかと懸念している。仮に空き家を活用することで人口が増えても、移住してきた人が高齢者になったらどうするのか、というのもあり、交通手段があれば安心して暮らせるのではないかと。

・鮎尾の場合、災害発生時には孤立するのを前提に生活しなければならないと思っている。

道路が寸断されて動けなくなって孤立したが、発災後一番問題だったのが安否確認である。通信手段として災害に強い基地局をつくってもらいたい。

・交通手段としては、鉄道の代替バスが八代まで運行されているが認知度が低い、利用者が少ないということで減便・運休が行われているようだが、利用する側のニーズに合っているのか調査した上で運行時間帯を決定してもらいたい。学校が試験などで半日授業のときにバスの時刻があわないため利用しにくいという意見もある。

・日光の棚田の活用については、地域を上げてやっていかなければならない問題だと考えている。また、雨乞い踊りについては引き継ぐ人も少なく、仮に立ち上げても続けていけるか不安もあるため、その辺も考えなければならない。

《中谷地区 参加者：17名》

【意見・質問等】

復興まちづくりの目標に、「安全安心」という言葉が含まれている点は良いと思った。お尋ねしたいことが3点ある。1点目は中谷橋について。中谷橋には今も両岸に瓦礫が残っている。自然落下を待つのか、瓦礫をとる予定なのか教えてもらいたい。私としては早く瓦礫をとっていただきたい。また災害が発生した際に瓦礫が積み上がってしまう可能性があるのではないかと思う。2点目は中谷のバス停について。中谷のバス停は、瓦礫が見えるところにある。バス停に立っていると、恐ろしく風化しているように感じる。また瓦礫を見ることで水害発生時の嫌なことを思い出すし、安心して待てられない。安心、安全のために、バス停の設置場所変更や、ガードする等工夫することで、バス利用者も増えて、安心して利用できるのではないかと。3点目は1日3回流れる「ピンポンパンポン」の時報について。時報が流れると、緊急情報連絡かと思いきとす。水害前は「エーデルワイス」や「ふるさと」等の音楽が流れていた。また現在の放送は時刻を連絡しているが、遠くに住まわれている方には何の連絡か聞こえていない。時刻を丁寧に教えていただかなくても、坂本町民は音楽で十分時刻はわかる。現在の放送内容も工夫されてのことだと思うが、再度音楽を流すことを検討していただくことで、朝から音楽が町に流れ、目標である、幸せを実感する、ことができると思う。

【回答】

中谷橋瓦礫の件について。昨年度に引き続き準備をすすめているが、業者の確保が困難となっている。一刻も早く瓦礫撤去に向けて進めていくため、ご心配されているかと思うがもうしばらくお待ちいただき、ご理解のほどお願いしたい。路線バスと乗合タクシーを担当している。バス停位置については持ち帰って検討させていただきたい。音楽を鳴らしてほしいという意見は被災後、たくさんいただいていた。現在はできる限りの放送内容ということで検討した結果、時刻のみの放送となっている。皆様が安心して生活ができるように、ご意見を持ち帰って検討させていただきたい。

瓦礫については、準備を行っているためご理解いただきたい。バス停の安全確保について、現在工事用車両が続けて走っているかと思うが、早急に対応させていただきたい。放送も、

元気になるような音楽の放送を検討させる。

【意見・質問等】

懇談会では度々訴えているが、本会で配布された資料の八代市坂本町中谷地区復興まちづくり計画(案)においては医療機関の必要性についての記載がない。坂本町にとっては切実な機関である。八代市で本当に真剣に考えているのかと感じている。中谷地区に診療所を設置してほしいと言っているわけではない。本資料には、安心なまちづくり、と記載があるが、病院を一日も早く設置してほしいという要望に対して資料に記載はない。坂本町は医療機関から見放されたのではないかと進言した。今でもけがをした人はタクシーで移動しなければならず、運賃が何千円もかかる。救急車を毎回呼ぶわけにもいかないため、1日も早く診療所を設置してほしい。検討、協議しています、と言うが、具体的にどういう協議や方向で考えているのか。現八代市長任期中の4年後にやろうとしているのか。4年も待たずに地元としては1日でも早く、仮設でもいいから安全なところに設置してほしいという要望があるため検討してほしい。医療機関が含まれていないのは本当に残念。

鹿対策も本資料に記載はない。日常生活の中で畑を耕しているが、鹿被害のせいで野菜ができず、作る気がしない。なんとかして鹿を減らしてほしい。意見が本当に活かされているのか心配である。

【回答】

医療について、資料の八代市坂本町中谷地区復興まちづくり計画(案)の2ページ目に「地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段を図ります。」を記載している。これは支所周辺に、医療機関確保を前提に住まい・生活環境の再生を行いたいという点を示している。今回の意見を踏まえて課題にも医療施設の必要性について加筆していきたい。有害鳥獣に関して、前回の懇談会時にも意見が出ていたかと思うので課題と対応して記載したい。その他、前懇談会時の意見が本資料に入っていないものについては、この後の話し合いでまた追記していきたい。

医療機関は絶対必要な部分と説明している。国と色々詰めていかなければいけないが、必ずや実現させていく。

【意見・質問等】

計画案の被害概要について。家屋以外の、山林や河川、道路等の被害について詳細を記載してほしい。坂本PAについて。スマートICはどうなったのか気になっている。空き家活用について。山江村では集落ごとに、空き家を備蓄倉庫や避難所に活用するという計画が立てられていると思う。坂本地区は避難所までが遠く行くことが大変である。避難することが危険と思い避難しない方も多と思うので、避難所は各集落にあると良いと思う。自分も千丁コミュニティセンターに1ヶ月半避難したが、すごく不便だった。長期避難でも耐えられるような避難所を想定して、トイレや洗面所、洗濯機の配置等を検討してほしい。1日だけの避難は本当の避難ではないと思う。被害にあったらすぐに家には帰れないと思う。以上の点を想定して、山江村を参考に避難所を設置していただきたい。くま川ワイワイパークについて。かつて球磨郡や町外の方が集まってすごくにぎわっていた。スマートICができれば関係人口が増え、坂本のにぎわいも戻らと思う。子供世代にも大事だと思うので、スマートICとくま川ワイワイパークの復旧は急いでほしい。避難ルートについて。県道・国道だけでは避難が

難しいと思うので、林道・作業道をどういうふうに避難ルートとして使うのか、具体的に実現可能なルートを検討してもらいたい。

【回答】

坂本町の道路等の被災状況について。復興まちづくり計画は集落の再生に向けてどういった取り組みを行うべきかに力点を置いている。昨年策定した復興計画の方に坂本町全体の被災状況を記載しているため、確認していただきたい。坂本PAを活用したスマートICについて。まずは工事用道路の出入り口としての確保し、国と連携して取り組んでいる。地元説明会も開催しているので一步一步進んでいるかと思う。空き家活用による避難所の設置については、担当課と連携して持ち帰って検討する。避難ルートについて。今年の夏に市の担当部署、道路管理者、地元住民の方と説明会を開催しており、実際活用できるか等を担当部署と検討している。くま川ワイワイパークについて。昨年に引き続きコロナ対策で閉園していたが、右岸側は坂本町民の活力の場として開放要望があり、一部開放している。左岸側については瓦礫置き場として一時使用させていただいているためもうしばらく開放に時間がかかる。点検したところ遊具が一部水害に遭い機能しないところもあったため、少しずつ開放できるように努力していく。

【意見・質問等】

国道 219 号線は、数箇所が片道の交互通行で不便な状況である。通常通行がいつできるのか見通しを教えてください。生名子から深水に通じる道は、県道として車が通る計画になっていると思うが、現状どうなっているのか、展望を教えてください。坂本支所の完成が令和 7 年の 12 月は遅すぎる。どうしてそんなに時間がかかるのか。支所含め診療所ができるのであれば待たなければいけない。待てる状況ではない。高校生の通学専用バスを市で運行してもらえないか。現在、民間のバスと鉄道会社のバスが運行している。民間のバスは 7:12 発、八代駅に 7:32 に着く。鉄道会社のバスは 7:15 発、八代駅に 7:45 に着き、所要時間は約 30 分かかる。費用は、民間バスは 200 円、鉄道会社バスは 280 円かかる。後者のバスは使い勝手が悪いように感じる。民間バスの最終便は 18:30 に終わり、部活をやっている高校生には間に合わない。このため鉄道会社のバスの 19:30 に乗るが、なかなか利便性が悪い。私は毎朝子どもを送っており、送迎にかなりガソリン代がかかる状況である。高校生の送り迎えで負担がかかっているため、八代市でサポートしてもらいたい。国道・県道・市道の整備と、かさ上げ経過の説明会を開催してほしい。

今後、住民と国・県・市で話し合いできる場を継続してつくってほしい。

【回答】

道路担当者が本日来ておらず、明確な答えがだせないため、持ち帰り回答させていただく。現在、不便をかけてしまっているが、早期開通復旧に取り組むためご理解いただきたい。

道路関係の者が本日来ていない。県道の中津道八代線は、鉄道会社と協議してすすめていると聞いている。詳細にいつまでに計画が完了するか私が把握していないので持ち帰り、担当に伝える。

支所再建が遅いというご意見について。なるべく早くできるように進めていくため、ご理解いただきたい。道路整備やかさ上げの説明会について。まちづくりと連携して進める必要があ

る。今年9月25日に輪中堤・宅地かさ上げに係る説明会、11月20日に輪中堤・宅地かさ上げに係る相談会を行わせていただき、現在集落ごとの意見交換を行っていただいている。道路整備や宅地かさ上げ、まちづくり等と連携した取り組みを行わせていただく。国・県・市との説明会については、必要に応じて開催させていただきたいと考えている。テーマ等によって場も必要だと思っている。バスの件は、即答できる者がいないので持ち帰らせていただく。

【意見・質問等】

担当の方がいないということで回答いただいていない点があるが、いつ頃どうやって回答するのか。

【回答】

次週に見通しを回答できる予定である。

坂本支所で住民の方々への報告等対応させていただく。

【意見・質問等】

来年度のスケジュールについてどうなっているのか。

【回答】

事細かなスケジュールはないが、住民自治協議会や地区代表の方々と今後調整しながらスケジュール等を相談したいと思っている。今年度中に本計画を策定するため、一旦出来上がったものを修正していく。

【意見・質問等】

坂本町全体での懇談会はないのか。

【回答】

必要であれば検討したいと思う。

【グループワーク】

・個人的な考えだが、私が1、2年後に仕事を辞めた時に、私は復興に関して何をすべきか。地区内では毎年1、2人亡くなっている。子供も戻って来ないと言っているので、地区の10年後を心配している。新たに人が入ってくるように何かお役に立ちたい。空き家対策のように、中谷地区に人が入ってくるようなことを熟考していきたい。現在、どこにどのような内容を相談した方がいいのか、相談の窓口はどこにあるのかがあまりわからない状態である。人を呼び込む案として、極端に言えば、「5年間住民税は0円にするから住んでみてください」等の施策や、マスコミの利用、企業の誘致を図るなどして、坂本町・中谷の地区住民が減少を防ぎたい。子供達が「帰って来てもいいよ」と言ってくれる地区をつくっていきたい。

【回答】

坂本支所に復興まちづくり相談窓口をつくっている。中谷地区の担当もいるため、相談いただ

き提示いただいた意見を汲み取っていきたいと思っている。

- ・放送が聞きにくい。時報など緊急放送以外は音楽だけにした方がいいのではないか。

- ・災害時の緊急避難場所は、以前はさかもと青少年センターだったが、今は分館が第一次避難場所となっている。実際にはさかもと青少年センターの方が安全だろうと思うが、安全性に問題があるのではれば整備していただき避難場所に指定してほしい。

- ・国道はいつ直るのか、県道はいつできるのか、という質問に対して回答ができていなかった。こういった会で担当者がいなくて説明できないというのはいり得ない。はっきり言って国道、県道の問題は以前から挙げられていたにも関わらず、返事がもらえないということは納得できない。

- ・寒い中、皆様集まっているが、参加者人数は少ない。人が集まらないことは残念である。せっかく八代市長や副市長が参加してくれるのに、人が集まらないのは、本会に魅力がないからなのではないか。質問に対しほとんどの意見が持ち帰り、という回答だった。即回答してほしかった「国道 219 号はいつ開通するのか、八代中津道線はいつ開通するのか」に対して全く返答がなかった。本質問は、質問者個人に返答する問題ではなく、坂本全体に回答してほしい問題である。肝心の道がいつ開通するかわからない、いつ回答するかわからないことは、復興のイロハになっていない。4 回も貴重な会を開いていただいているが、あまり私はこの会に魅力を感じなかった。地区住民に「どうしても参加してくれ」とは言えなかったことが残念である。

【回答】

たくさんの方に参加していただきたく、出来る限りのことをしてきたつもりだが、力が及ばなかった。参加いただいた方の力のおかげで本会の資料ができた。皆様と一緒に、皆様が主体となって計画を検討していきたい。

- ・資料の八代市坂本町中谷地区復興まちづくり計画(案)の 2 ページに記載されている、地区の資源を活用した取り組みについて。今日は地元の山の神様祭りがあるので欠席されている方が多い。地元の祭りに熱心な地区であり、直接的な水害に遭っていないということもあって参加者が少ないのかもしれない。坂本町では七夕綱や他地区の日光の棚田など良いものが残っているが、現在お年寄りだけで継承している。小中学生に体験してもらうなど、文化や伝統を引き継ぎ坂本町民で継承できないか検討したい。

- ・空き家については、各地区の方が状況を把握していると思う。空き家主はなかなか空き家バンクに登録はしてくれないため、各地区で確認し、行政と相談していきたい。持ち主の連絡先がわからない場合は、行政で税金を払っている方を把握していると思う。連絡先を教えていただければ、例えば自治会長の方で連絡するなど対応できると思うので、空き家の活用は今後非常に大事だと思う。

- ・資料の八代市坂本町中谷地区復興まちづくり計画(案)の 2 ページに記載されている、生活利便施設への移動手段の確保について。公共交通のことだと思うが、若い世代をサポートする意

味でも、公共交通の手段を整備していただきたい。小中学生がいる家庭の自宅が3分の1近くの家が全壊で、仮設やみなし住宅に住んでいる。親御さんが坂本に戻ってきたくても、坂本には高校もないし移動手段もないため、帰ることを諦める保護者が増え、ますます少子高齢化が進んでいる状況になっている。若い世代の定着のため、市でサポートしてもらえないか。鉄道会社へはバスの運行時刻の変更等をお願いしても、実現は難しい。鉄道会社が将来的に本線を復活させるかどうか確定させてほしい。八代市で市バスの運行や料金面で子育て世代をサポートしてもらいたい。

・道路の整備について。大林地区では、くま川ワイワイパークから高速に至るアクセス路が狭い。また車の離合が難しい箇所があるので拡張できないか。

《西部地区 参加者：42名》

【意見・質問等】

下今泉の下流地域では、11月3日に地区会長が輪中堤推進ということで手をあげられたが、その判断に至る経過が透明ではない。地区会長が自宅に来た際には、宅地かさ上げだと費用がいくらかかるか分からないからということで、輪中堤推進の方向性で話が持ち出された。そこでの話やこれまで地区会長の頑張りも踏まえ、私は輪中堤でもよいと思ったが、判断自体は保留としていた。しかし、反対意見が無かったからということで、11/3に下今泉は輪中堤推進ということで地区会長が手をあげてしまった。輪中堤や宅地かさ上げのメリットとデメリットが分からない中、輪中堤推進の方向性になったことで、家庭内でも私を責める声があった。11月20日の説明会でメリット、デメリットについて説明があったため、下今泉としての方向性を判断するのはその後でもよかったのではないかと思う。判断が少し拙速過ぎたと思う。輪中堤や宅地かさ上げのメリットやデメリットをみると、どうしても宅地かさ上げの方がよいのではないかと感じてしまう、輪中堤で本当に大丈夫なのか。

【回答】

球磨川水系治水対策プロジェクトの一環として上流部の水位を低下させるような取り組みを行ったとしても昨年の7月豪雨並みの雨が降ると今の堤防の高さでは厳しいとの話が専門家から出されており、輪中堤あるいは宅地かさ上げによって宅地を守っていくということとなっている。そうした中で、9月25日に最初の説明会を開催し、地区での話し合いをお願いしたところメリット、デメリットが分からないというお声もあったため11月20日に改めて説明会を開催させていただいた。下今泉では9月25日の説明会以降、2～3回ほど集落での意見交換を行っていただいております、集落としては輪中堤でどうかというご意見をいただいた。一部の住民の方からは宅地が低い場所にあるため不安だという声もいただいております、引き続き、意見交換を続けていくことに尽きると考えている。

【意見・質問等】

国交省の方にお聞きしたい。市の説明では下今泉は輪中堤をということで話があったようだが、上今泉では堤防沿いの住民はみな宅地かさ上げを希望している。そうした状況を市や国はご存じなのか。同じ地区に住んでいながら、そうした状況を把握できていないのは問題である。先日、市や国の方から輪中堤や宅地かさ上げについて説明があったが、地域の皆さん

はあまり理解しないままに終わってしまっている。今泉地域の状況を把握せずに説明されているように思う。今泉地域は袈裟堂と同じで、上の方・下の方の両方に谷川があり、球磨川から押し寄せる水で谷川の水位はあがってしまう。私の知る限りでは国交省の方はこうした谷川の状況を把握していなかったと思う。ことを焦らずに地域に足を運んでもらう必要があると思う。国交省の方が説明に来て1週間か10日くらいでアンケートが取られ署名捺印を求められた。説明もよく受けていないのでアンケートを返してくれと言ったが返してもらえなかった。市も国交省も、もう少し地域の皆さんに密着した形で進めてほしいと思う。

【回答】

只今の下今泉と上今泉についてのお話は被災者の皆さまのお声として十分認識している。上今泉については11月28日に訪問し対象宅地についてご説明させていただいた。上今泉については既に輪中堤が出来ており、仮に今の輪中堤をベースに考えると1.2m程度高さが足りないという話をし、輪中堤と宅地かさ上げのメリット、デメリットを口頭でご説明させていただく中で、住民の方から支流の話について教えていただいたというのが実情である。それぞれの地域でそれぞれの地形なりに悩ましい問題があり、住民の方々もご苦労されていると認識している。国としては拙速に答えを求めるつもりはなく、十分にご議論をいただきたいと考えている。輪中堤と宅地かさ上げの両方を行うことは出来ない。今年の豪雨は河川の実力を大幅に超える豪雨であり球磨川流域全体の被害に繋がった。地元に戻って来たいという住民の方々をどうしても優先せざるを得ない事業であるということをご理解いただければと思う。

【意見・質問等】

輪中堤と宅地かさ上げについては、もう一度、市や国からご説明していただき地区住民が本当に理解できた上で決めていただきたい。私は洪水当日に球磨川におり、車ごと流される恐れがあった。それほどまでに河川の水位が急激に上昇していったのである。今泉の中でも道路幅は異なっており、輪中堤にすると道路が狭くなり車の出入りも出来なくなるのではないかと思う。輪中堤になると引水がなくなり、いつまでも水がよどんでしまう。そうしたことも考慮して考えていただきたい。

【回答】

改めて日程調整の上、意見交換の場を設けさせていただきたい。

【グループワーク】

・国道219号が狭く自転車で走るのが難しい状況である。若者の通勤、通学や高齢者の日常の移動も考えて、県道の拡幅と自転車道の整備をお願いしたい。

・至る所に水門があるが、これが何の役に立っているのかという質問が出た。

・公費解体後の空地の利用、空き家の利用を行政主体で考えてほしい。売却なども含め有効活用の方法を考えていただきたい。地域住民で草刈りなどをやっていく羽目になっていくのではと危惧している。

・猪や鹿が増えている。作物を作っても害獣に食べられてしまう。猟友会のメンバーが高齢化しているため、市内から駆除してくれる人を呼んで対応してもらいたい。駆除した後は、それを美味しいジビエ料理として提供できるとよい。天文台の方にあるバンガローを活用しながら、1泊2日で遊びやジビエなど楽しめる観光メニューを提供できるとよい。

・砂防ダムの堆積量が多く少しの雨で砂利を含んだ泥水がオーバーフローしてくる状況である。以前、水路を作ってもらったが上蓋がされておらず、かなりの石が水路に詰まっています。去年の豪雨災害ではその砂利が国道に落ち、国道の半分が石で覆われ通行できない状態になった。県土木にも何回か依頼しているが、いつまでも堆積状況が変わらない。早く撤去していただきたい。

・宅地かさ上げについては、被災した世帯の集まりが悪く、こうした話を全世帯に伝えてほしいと思っている。2か月に1回開催している常会でもよいので、市の方にも参加いただき話をしてほしいと伝え、明日の常会で説明してもらおうことになった。宅地かさ上げや深水橋の件も含め、もう少し地区に対する説明会を開催してほしい。

・深水橋について説明があまりなかった。元の場所に架け直すのであれば説明は不要かもしれないが、橋の位置が変わるのなら地区の住民に対して説明が必要ではないか。もっと早くから説明会を開催してほしい。

・防災力向上による安全して暮らせる地区づくりということで、地域には消防団の方が少なく高齢者が多いことから、地域の中で限定活動消防団を結成し活動することになった。11月28日には坂本支所の方などにご協力いただき第1回訓練を行った。

・八竜山の登山道入口のトイレが使えない状況で、登山道も歩けない箇所がある。こうした部分の再整備をお願いしたい。皆で作ってあげればと思う。

・新幹線が見える憩いの広場では桜の木が大きくなり名勝地になりつつある。広場の湧き水も今後活用していきたい。

・復興まちづくり計画にはこれまで出た意見が多く盛り込まれており、立派な計画になっていると思う。

・プロジェクト1については、先ほどから話が出ているように輪中堤か宅地かさ上げか判断が難しいところがある。この方針が決まらないと安心して暮らすことはできない。

・人口が減少していく中で空き家が増えてきている。空き家をどのように活用するのか地域で考えながら、市にも情報提供していくことが必要である。急傾斜地に立地しているため空き家バンクに登録できない物件もいくつもあり、そうした物件の活用などは今後の課題になると思う。

・地区の資源については、各地区、色んな良いところがあると思う。地域住民でそれぞれ地区の良い所について写真を撮って集め、市の協力も得ながら広くPRしていくことで観光や交

流の促進に繋げていけると思う。

・課題2で人口減少を抑制するための宅地の確保が必要などあり、プロジェクト2では空き家バンク制度についての記載があるが、今まで坂本町で空き家バンクに登録されている物件はひとつもないと聞いている。ここには災害公営住宅に関する内容も記載してほしいと思う。

・鵜の糞で真っ白になっており、外観を阻害している。今後、鵜の駆除も必要になってくるのではないかと感じている。

《百済来地区 参加者：22名》

【意見・質問等】

地区別懇談会は今日で4回目となるが、4回を通じて感じたことを述べさせていただく。災害で大変な目に遭っているため、復興は是非早急をお願いしたいというのが誰しもの気持ちであるが、4回を通じて感じたのは復興や災害復旧というのは原形復旧の形であったものを復旧するということであって、そのほかのことについてはあまり復興計画には馴染まないという印象を受けた。本来であれば復興に向けては県道破木二見線が真っ先にやるべき事業ではないかと考えているが、原形復旧ということで対象は河川改修や農地・林道の復旧であって県道の拡幅工事などは復興にはあたらないという印象を受けている。百済来の現状を見ると日奈久や八代に耕作機を持っている人がたくさんいて、百済来の人たちの生活の場は郊外というところが多い。ここにいる人の半分以上が耕作機をそっちのほうに持っている。まずは県道の拡幅が大事である。原形復旧が基本であって県道は対象にならないという印象を受けているため、そのあたりから説明をお願いしたい。

【回答】

プロジェクト1の中に、道路の安全性向上ということで記載している。日常生活はもちろんのこと、いざというときには避難ルートということで国や県に要望させてもらうということで記載している。また、逃げ道を確保するためにどのような作業道や林道が使えるかということで、この夏に地域の皆さんにご意見をいただいて整理しているため、現状復旧だけではなく、より良い地域づくりということで取り組んでいきたいと考えている。引き続きご協力をお願いしたい。

【グループワーク】

・個々のグループの意見としてはこれまで懇談会で出された意見がほとんど記載されているため、極力こういった形で進めていっていただきたいというのが総意である。

・あえて言うとなれば、やはり県道破木二見線について、大門瀬から二見の君ヶ淵までの区間の道路の拡幅整備が一番重要である。

・板持については、入口から奥の源流まで4kmぐらいあるが、1kmぐらいのところから上は木

材などが倒れたままで川の中に相当残っている。地域の人たちは雨が降るたびに心配しており、土砂の堆積で川底も上がっているため、流された木が橋に引っかかったりすれば大きな水害になる懸念がある。高齢者が多く、自分たちの山であっても手入れは難しいことから、行政の力も借りて業者を入れ、一番心配な部分から撤去してもらいたい。地区を盛り上げる祭りなどの再興も大切だが、まずはこういった安全確保に取り組んでいく必要がある。

- ・農地の関係について、板持の中心部の部落の田んぼで2ha ぐらいが土砂堆積しており耕作できない状態となっている。土砂撤去の工事がいつになるのか分からず、2~3年は米作りもできないのではないかと半ば諦めているものの、なるべく早く対応をお願いしたい。

- ・農業については後継者の問題も深刻で、現在農業をやっているのはほとんど70歳以上で50歳代は数えるほどしかいない。後継者がいかに農業を続けられるか、「自然の恵み」といった記載もあるが、今まで守ってきた豊かな農村地帯で年々荒れ放題の農地が目立ってきている。このあたりについてもどう対応していくのか、地元としても大きな課題であると考えているため、引き続き行政にも相談しながらやっていきたい。

- ・林道や作業道を使った避難について、坂本全体の会議でも発言したが、大雨により災害が発生するさなかに山のほうに避難するというのは疑問がある。板持陣之内線については石丸に抜ける区間が何箇所も崩れており通れるような状態ではない。避難経路として山の中を使って抜けるというのは逆に非常に危険なのではないかと危惧しており、ご一考をお願いしたい。

- ・第3回の懇談会の後に、早速市議会議員が何人か来て、状況を把握してもらった。その1~2日後には田畑の復旧工事がすぐ始まり、現在は工事が概ね完了するような状況となっている。

- ・また、山口川についても常会に説明に来ていただき、設計も完了、工事事務所も設置されて取り掛かるばかりとなっている。復旧作業がスムーズに進んでいるのではないかとということでまずはお礼を申し上げたい。

- ・被害状況について、百済来地区は住宅被害が合志野や藤本ほど多くはないが、県道、市道あるいは林道や農道が多数被害を受けている。住宅被害だけでなく、県道、市道、林道、農道の被害状況を記載しておいてもらえればと思う。

- ・県道については排水路を重点的に整備してもらいたい。具体的には馬場のところになるが、現在、砂防工事を実施しているところから流れてくる土砂が排水路の土管に堆積し、土砂や水があふれて通行できない状況である。また、大門瀬公民館のところについても大雨が降ると埋まるが、これらの箇所を改良すれば二見までの県道は全部通行できるようになると思う。

- ・第3回の懇談会でもお願いした旧小学校の照明についてだが、第2次避難場所となっている旧小学校のグラウンドに照明がなく、災害時に暗闇の中に集まるのは難しい。照明が設置されれば遠くまで明るくなるため集まりやすいし、村の伝統行事などにも活用できるのでは

ないかと思う。また、あわせて体育館の使用についても、これも前回お尋ねしたところであるが、どのような結果になったのかお知らせいただきたい。

・河川改良について、現状復旧ということで工事が実施される予定とのことだが、河川改良工事という形でかさ上げするようなことも検討してもらいたい。

・田んぼの堆積土砂の撤去で大型トラックが何台も通っているが、土埃が舞っている。中にはスピードを出しすぎている車両もあるため、スピードを出さないような工夫を検討してもらいたい。

・避難訓練などの必要性が叫ばれているが、公民館前の道路が荒れたままになっているため、まずはそういった部分を早めに復旧してもらいたい。高齢者が多く、日曜日の朝にやっている常会にも押し車を押して来る人もいて、足元が不安である。そこでけがしては避難訓練どころの騒ぎではない。

・八代市管理の河川については概ね工事に着手されているが、県管理の河川で壊れている部分について土砂の撤去はしているが壊れている部分を修復しないと土砂を撤去しても大雨が降ったらどうなるのか心配している。いつになったら復旧工事が実施されるのか地域の人も不安を感じている。

・林道が集落の上を通っているが、最も荒れているところがちょうど集落の真ん中を走っていて、川の奥のほうでは林道が4~5箇所壊れている。そういったところについても早めに復旧してもらいたい。

・鶴喰から大門瀬までの市道について、途中が狭くなっているため拡幅できないものか、といった意見が出た。峠のところから50~100m ぐらいの区間が狭くなっているため、その拡幅をお願いしたい。

・プロジェクト1の生活利便施設への移動手段の確保について、公共交通の見直しといった記載がある。坂本には病院が2軒あったが、現在は無い。そこに通院していた人はどうしても市内まで出なければならず、日奈久方面や八代方面の病院を利用したいが乗合タクシーの便が悪いため行きづらい、という意見がある。予約便の取り消しなどを検討してはどうか。

・医師不足などの問題もあるのかもしれないが、診療所を開設する予定はあるのか。

・河川の安全性に不安を感じているため、早急な復旧工事をお願いしたい。

《田上地区 参加者：14名》

【意見・質問等】

OU ターンで坂本に戻ってきて14年ほどになる。戻ってきた当時の人口構成ではまだまだ体が動く人が多かったが、高齢化が進み体力的に体を動かすことができない人が多くなってい

る。計画案が示されているが、誰が主導して取り組んでいくのか。活動の主体となる組織としては地域振興会になると思うが、参加する人が少ないため、せっかく計画を策定しても実際の活動に参加する人が少ないことから、この計画がどこまで実現化できるのか懸念している。実現性を担保するための措置を考えないと計画倒れになるのではないかと感じているが、行政としてどのように考えているのか。

【回答】

プロジェクト3の農業継続と農地活用プロジェクトの中に新規就農に対するサポート体制の充実ということで記載しているが、行政としても担い手育成の支援をしたいと考えている。復興まちづくり計画案の中には記載がないが、昨年度策定した復興計画には地元から要望があった地域おこし協力隊についても盛り込んでおり、制度をスタートして隊員の募集を行っているところである。地域ニーズを踏まえて可能な限り担い手の確保・後継者の育成を支援できればと考えている。計画全体の取り扱いについては、坂本住民自治協議会とは調整を進めているところであり、協議会の中の構成団体である地域振興会や自治会、市政協力員などが一体となって計画倒れにならないように、進捗を確認しながらスケジュール的な部分も含めて皆さんで進めていくことができる体制づくりを推進していくことを検討している。まずはみんなで地域のことを一緒に考えて、関係する団体で坂本町全体を元気な方向にもっていく必要があると考えているため、引き続きご協力をお願いできればと思う。

【意見・質問等】

このまちづくりの中には教育の視点が入っていない。教育は坂本全体に関わる問題である。八竜小学校についてはもうしばらくすると全ての学年で複式学級が始まっていく。行政としては1人でも子供がいれば学校は閉めないということだが、学校運営は厳しくなる。全体で14～15人ぐらいになってくるためこのままだと坂本中学校は廃校になるのではないかと。そうすると少子化や過疎化は一気に進んでいく懸念があり、小学校のPTAの人たちにとっては大きな問題なのだが、全く問題化されてきていない。行政として状況は把握しているのか。

【回答】

少子化ということで子供の数が減っていることについては教育委員会も承知していると思うが、学校の問題は地域全体の問題であるというご意見があったことはしっかり伝えておく。

【意見・質問等】

八代市の担当課に問い合わせしても危機感を持っていないように感じる。流れとしては、本来であれば県が国に委託されている地域教育協議会のなかでこういった問題を取り上げなければならないと思っている。坂本の学校存続のためには阿蘇で2箇所行われているような義務教育学校を目指していくしかないと言っているが、反応が薄い。個人的な意見であるが、義務教育学校づくりを目指してはどうかと考えている。9年制生の特徴ある学校づくりを行うことで小学校の複式が解消されたケースもあると聞いたことがある。将来的なまちづくりを考えた場合、子供がいなくてどうしようもない部分もある。八代には不登校の子供がかなりの数いると聞いており、不登校の児童しか学区外への通学は認められないということなので、坂本の自然の中での教育を打ち出すことができれば、小さい学校でもそれを売りにしていけるのではないかと考えている。市街地から子供が来るようになると少し変わってくるのではないかと考えている。鶴喰については来年は小学生がいなくなるが、坂本町全体で言え

ることである。坂本には天文台があるため天文学を教育として入れ込む、川の特化している学校があるためそういったものも取り込む、といった形で特色のある学校づくりを目指してはどうかと考えている。子供がいなくて寂しいし、中学校がなくなってしまうと小学生の保護者も中学に上がる前に八代に引っ越してしまう。復興まちづくり計画の中にも学校教育のことも追記してもらいたい。

【回答】

まさしく言われる通りではないかと思う。小中学校について、山間部は全て同じような状況である。高校の例でいうと八代農業高校の泉分校は特色を活かした分校になっており、地元の子供だけではなく県内から生徒が集まってきているため、さっそく明日にでも学校教育課・教育長も含め進めさせるようにしたい。計画のなかにも教育の問題を取り込んでいかなければならないため、そういった方向付けをさせてもらいたいと考えている。

【意見・質問等】

復興まちづくりプロジェクトの中で、具体的な取り組みとして河川の安全性向上、護岸復旧や河川内の土砂撤去により安全性を高めるとの記載がある。豪雨災害に遭った人吉、球磨、芦北、八代には県管理河川が123あるが土砂撤去量は115万 m^3 すべて撤収が完了した、との新聞報道があった。しかしながら百済木川は支流から土石流が流れてかなりの土砂が堆積しており、対応は令和3年度ということになっている。報道では八代市内では1箇所実施したということだったが具体的にどこで実施したのか。撤去の工事をやっているのを見ない、実際にはやっていないのではないかと。河川の堆積土砂がかなりあって、豪雨災害が起こる前から比較したら1mぐらいの土砂が堆積している。各地区には、井手というのがある。井手というものは田んぼに用水路から水を引っ張っているものであるが、その井手の土砂が天板付近まで上がってきており、7月豪雨災害のような雨量があれば瞬く間に7月豪雨以上の災害が起こるのではないかと危惧している。来年の梅雨が大変不安であるため、とにかくできるだけ早く土砂の撤去をやってもらいたいというのが地区住民の強い要望である。

【回答】

6月の新聞の報道については、緊急的に対応すべき土砂をまず撤去してもらったという内容である。坂本町でも2,000 m^3 ぐらいの土砂が撤去されている。百済木川については地区からも土砂撤去の要望を受けているため、早急に要望を伝えたい。今精いっぱい対応をしているところであり、農地の堆積土砂についても取り急ぎ対応を進めているところであるためご理解をいただきたい。

【グループワーク】

・豊かな暮らし資源を活かして、定住は無理にしても交流が重なり合うまちという面では可能性を持っている地区なのではないかと考えている。

・プロジェクト1については、 保育園が避難所として発表されているため、災害があった時に集まる場所になるのではないかと。思う。

・プロジェクト22では、祭りの進行復活、ほたる祭りの復興の話が出ている。以前のような

ステージを設置するような大規模なものではなく、憩いの広場の駐車場に椅子を並べ、ほたるを鑑賞したり、飲み物を提供したり、ちょっとした音楽の演奏会をやったりというような、静かなほたる観賞会を企画してはどうかと考えている。行政の支援があるのとないのとでは実行力が違うため応援してもらいたい。

- ・地域資源については、[]で体験ツアーをやっているため、行政にも応援してもらいながら、今後は鶴喰のほうに体験を通して来てもらい、鶴喰米やエミュー、泉などの資源を活かしたものを作り上げていくことができるのではないかと考えている。

- ・プロジェクト3の新規就農者に対するサポート体制の充実について、農業に関心がある人たちに対してのオーナー制度や栽培体験などを実施する体制については鶴喰で対応できる。土地もあり、豊富な経験を持っている人もたくさんいるため、行政にも企画や呼び込みを支援してもらえれば、そういった企画を通じて鶴喰で栽培体験をしながら、農業を面白いと思う人たちが就農するような可能性もあるのではないかと考えている。

- ・農地を活用した取り組みについては既に体制が整っており、[]やクレオン、道の駅などが協力しながら、[]がしめ縄づくりの体験を担い、クレオンや鮎やなが食事を担うなどといった形で、正月準備ツアーとしての受け入れなどを行っている。行背のほうでもそういった企画をつくってもらえれば、受け入れ団体で協力しながら交流を盛り上げるようなプログラムが鶴喰ではできると考えている。

- ・復興に向けては人の賑わい・交流が手始めだと思つため、今ある資源を活かした観光振興、賑わいづくりということで坂本温泉センターを最大限に利用してはどうかという提案があった。

- ・せっかくあるものを有効に活用したいが、まずは宿泊ができないため、ただ日帰りで温泉に来るだけになってしまっている。昨今、キャンプがブームになっており、この地区はもってこいだと思う。魚釣りもできるため、その辺を活かした取り組みができればそこから火が付く可能性があるし、広げていけるのではないかと考える。

- ・災害後、川に堆積した土砂の中にトタンや金属類など色々なごみが流れ込んできているため、地区の皆さんで環境美化のためにごみ集めをやっているが、ごみの日に出しても災害ごみのため収集してもらえない。せっかく地区で協力して取り組んでいることなのに回収してもらえないのは悲しいので、対応を検討してもらいたい。

- ・先日、断水があった。水路のパイプの老朽化・破損のためであるが、道路から流れた土砂が詰まって水路が使えなくなって断水した。もう一度水路の確認と点検をお願いしたい。

- ・交通の便が悪い。破木二見線道路の狭いところについて、できるだけスムーズに離合ができるように整備をお願いしたい。

《深水地区 参加者：10名》

【振興会長挨拶】

今日は年末の、しかも朝の寒い中、集まっていただきありがとうございました。年末の忙しい中に市長はじめ行政の方々には、第4回の懇談会を企画・開催していただいたことに対して心より感謝とお礼を申し上げます。また、深水地区の皆さんには、日ごろから地域開発部、振興会の行事にご協力いただきありがとうございます。今日は第4回目の懇談会ということで、皆さんの思いがすべて出尽くしましたので、今後、行政の方々にそれを形にしていっていただければ幸いに思います。未曾有の水害から1年と6か月が経ちましたが、復旧工事も、短期、中期、長期とありますが、並行して着々と進んでいるようです。関係者の皆様には心より感謝いたします。報道関係などで坂本の住民の方々が災害に遭われ、メディアの前で涙を流しているのを見るのがとても嫌いです。坂本町の復旧・復興が進み、一日でも早く坂本の方々が早く地元に戻れるようになって、涙が笑いに代わるように、坂本の山々に笑いが響くようになったら良いと思っています。市長には早くそうなるようにお願いします。新年まであと一週間ほどになりました。皆さんが健康管理に十分に注意して復興推進課の皆様をはじめ各行政の方々に良い正月が来るよう心より祈念し、来年はまたご活躍を期待します。ありがとうございました。

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

・たくさんの意見が出ており、言葉だけで表現するのが難しい部分も多いため、テーブルに入っていた坂本支所の担当の方に詳細をお伝えしている。

・一口で言えば、県道の上にある林道のほうから発生した土砂災害が下の県道が受け止める形になって県道の通行が困難になってしまうことが課題だと考えている。

・また、これから寒くなって雪が降ったり道路が凍結したりするため、その対応もお願いしたい。

・イベントや住みたくなる地区については、維持管理が大変難しい。年に一回のメンテナンスについて、行政のほうでボランティアなどを募集するようなことも考えてもらいたい。

・空き家の問題や、道路が非常に狭いため安全性を確保してもらいたい部分などについても、担当の方にご説明している。

・最後に、笑顔で暮らせること、全ての面において支障がなく、みんなが住みたくなるような地区を目指して、今後も定期的な点検などを行政にも検討をお願いしたい。

・生活面から言うと、今現在、県道の第二発電所のところが12月6日から今日まで工事のため時間帯によって通行止めになっているが、以前から利用が多い林道深水袈裟堂線が迂回路となって、通行止めの時間帯にはかなりの車両が行き来している。カーブが多く見通しが悪いため、カーブミラーが設置できないか、との要望があった。

・県道の深水川口の部分について、鉄道のガード下がちょっとした降雨でも浸水することが多々あり、今回の災害では何軒かあった家屋が被災するほど浸水した。被災した家屋が再建されないのであれば、そこを埋め立てて鉄道のトンネル口に踏切を設置して道路を整備できないかという意見も出た。

・観光面では、走水の滝に展望所と遊歩道を設けている。以前は滝口まで遊歩道を整備していたが狭くて危険があるため封鎖して、展望所から眺めるようになっている。板の平に行くところの通称、平野郷のところから滝口まで、別コースで遊歩道のようなものが整備できないものか、といった意見があった。

・観光ルートについて、林道の迂回路に眺めがよい眺望スポットがあるため、コースに繰り入れてはどうかとの意見が出た。

・一番必要なのは道路の整備拡充ではないか、という意見だった。

・皆さんも考え方は一緒だと思うが、地区が目指す姿というのは要望してもなかなか実現できないところもある。以前、市政協力員もやっていたが、問題がある箇所を写真にとって改善を要望したりしていたが、お願いしてもなかなか対応してもらえなかった。谷が詰まって家のほうに砂利が流れてきて困っているような状況があり、私自身も何度も砂利の撤去をしたことがあった。排水のための土管が細くて詰まってしまうため、太いものに変えてもらうようお願いしたこともあったが、変えてもらえていない。道路管理の人が頻繁に来るため、その人にもお願いしたが、未だに対応されていないので何とかしてもらいたい。

・現在は空き家が増えて人口が減っている。先日、昼間に大きな音がしたため確認をしたら石垣が割れていた、という話も聞いた。すぐに市に連絡して確認してもらい、今のところ大丈夫ということだったので安心したが、そういったことが多々ある。

・何でもかんでも要望すればよいというわけではないが、道路の下が崩れたり、石垣が崩れたりということで、写真も撮ってお願いしているが未だ対応されていない。

・住み慣れたところであり、少し道路も良くなって今のところの生活に大きな問題はないが、みんな高齢者になってしまっており、車を運転することができなくなれば不自由になる。乗合タクシーは車を運転しない人には助かるが、行きはよいものの、帰りはうまく時間が合わない、という話もあるため改善してもらえればと思う。

《藤本地区 参加者：53名》

【意見・質問等】

質問であるが今回4回目で、3回目までの結果がある程度見えてきたという形で提示してもらっているというふうに理解している。しかしながら、何度も提案的な意見として、河川の拡幅、歴史的、地歴を見て、川だったところを埋め立てたところについて可能な範囲は川幅を

広げて、すぐ治水安全度を高めるという検討、検証をして欲しいという声を、幾度も上げていたが、一切反映されていないという理解になっている。なぜこのような形になったのかまったくもって不明である。幾度も河川の拡幅をするところがあるのではないかと、それにより水位を下げることができるのではないかと、意見を出して、検証して検討してと、声を上げているつもりであるが、その結果が一切反映されていないことに少し、少しというか大変残念に思う。なんとはいえいいのか、同時に会の運営についてこれから懇談会が新しいステージに入っていきたく思うが、例えば先だって10名程度で行われた会議含めて、復興に関する会議、全て議事録含めて公開していただきたいと思う。ホームページに過去議事録含め、どういう経緯でどういう結論に至ったのかを議事録含めて後追いができるような整備をしていただきたい。少しずつ形になってきているとは思いますが、それでもまだ不十分である。そもそも7月4日の緊急対策会議の議事録が1、2、3回全て公開されていないという状況からして、いったい何がどういう風に行われていたということを後で確認するということについて、八代市政として大きな変更をお願いしたいと、どういう経緯で、どういう判断で、物事が決まっていくのか、なかなか見えないという中で、今後の計画の話し合いをという場に参加するが、なんとというか残念に思うことがたくさんある。もちろん大変ありがたいと思うこともたくさんあるため、決して全てを悪く言うつもりは毛頭ないが、最低限、行政としてどういう判断ができるかの根拠を議事録含めてしっかり出していただきたい。議事録をしっかり見ていただければ、河川の拡幅について何度も声を上げた住民がいたということが記録に残ると、それを一切検証すらしてもらえていないという状況が可視化されるのではなからうかと思う。どうか改善の程、宜しく願いたい。

【回答】

河川拡幅の件については、何度かお答えをしている通り、緊急治水対策プロジェクトにおいて河道掘削や遊水地、ダム等の様々な計画や、また現在ご相談させていただいている輪中堤や宅地かさ上げ等の対策を行うことにより、令和2年7月豪雨のような災害が起きても家屋の浸水が起きないように対策を行っていきたく考えている。

懇談会の議事録については過去3回分をホームページにて公表を行っている。また今回の4回目についてもまとめを行い公表する予定である。また先ほど国から説明があったが、坂本地域の対策としては、現在の流域治水対策プロジェクトにおいて、河道掘削や輪中堤、宅地かさ上げに対しての取り組みは市としても同様に考えている。

【意見・質問等】

先ほど復興推進課より、復興まちづくり計画とは、復興計画を具体化したものと説明があった。復興まちづくり計画は地区ごとに開催されているが、本計画に子育て世代に関する報告が入っていないのかなと思っている。坂本は昨年の国政調査の結果、人口が2,300人、高齢化率は60%を超えていると報告を受けているが、今後坂本地域の担い手を、子供たちをどう育てていくのか、また実際に被災されて八代市に避難している方が、私もそうだが、坂本に戻ってくるかすごく悩んでいる状態であるため、もう少しそこら辺を具体的にまちづくりに反映できるような、子育て世代に特化した懇談会を開催して欲しいと思っているところ。先ほどの質問者と被るかもしれないが、昨年の豪雨災害の課題や見直しを、八代市でも地域防災計画の見直しを行ったと聞いている。300ほど計画内に課題があったと聞いている。どこを

どう言う風に課題としてとらえているのか公表されていないため、住民側として困ったことがちゃんと反映されているかわからないため、教えてほしい。できれば公表してもらいたいと思っている。

【回答】

子育て世代関係について。今回の復興まちづくり計画は地区ごとの特徴を活かして、今後の創造的復興に向けてなにか活かすことができないかを前提に、皆様に集まって意見をいただき、会議をすすめてきた。只今ご指摘いただいた、子育て世代に関する内容は復興計画の本編で坂本全体に関わることとして、例えば小学校、中学校の通学支援のことや子育て世代の経済負担軽減、子育てしやすい環境等について、何点か地域全体に係るところを施策として記載させていただいているため、復興計画の方で地域全体として取り組みを進めさせていただければと思う。ご意見があった、子育て世代に特化した懇談会については、そういった意見があったということで持ち帰らせていただく。地域防災計画の見直しの件について、7月4日の豪雨災害を踏まえ、八代市で対応した事柄でよくできたこと、それから課題、課題に対する改善点の見直しをさせていただいた。指摘のあった地域防災計画の公表については、今年の6月に検証を踏まえたうえで見直しを行ったものをホームページで公表している。検証の中身については現在報告書としてとりまとめ作業を行っているため、完成した時点で何らかの形でお示しをさせていただく。

【意見・質問等】

今日は子育て世代にとっていつもありがたい見守りを、防寒対策と共に実施してもらい感謝する。今回藤本地区で、道の駅坂本の位置づけが記載されていない。現在道の駅坂本の目の前にある船着き場が建設工事中となっている。どういった今後の道の駅坂本の方向性、復旧、復興のあり方がなされているのか教えてもらいたい。前回、この質問をした時には、八代市の担当者は国、県と協議しながら、という話だった。今日この場には国、県の担当者が出席していると思うのでそこを含めて答えてもらいたい。

【回答】

道の駅坂本については先日もお答えした通り、道路付属施設としての役割と、情報発信、または観光を担っていただく役割等があり、資料に漏れがあったことを謝罪する。追記させていただく。災害復旧については引き続き、先ほどパワーポイントでお示ししたが、こちらの坂本地域においては輪中堤或いは宅地かさ上げということで、宅地への浸水を軽減するという取り組みを進めていくので、そこは前回と答えは変わらないが、今後も国、県と連携して復旧を進めさせていただく。道の駅はこのプロジェクトの中で書かせていただく。申し訳ない。

【意見・質問等】

船着き場についての回答を聞きたい。

【回答】

かわまちづくりの担当をしている。道の駅坂本周辺とボートハウス跡地を拠点としたかわまちづくりは災害の前から行っていた。被災により一旦中断しているが、船着き場周辺の水辺については、可能な限りの復旧と整備を行うということで国から先日説明をもらったとこ

る。その際にかわまちづくり実行委員会の会長にも報告は遅れたが、説明をさせていただいた。このかわまちづくりについては、今後の復旧、復興の状況を見ながら継続して取り組んでいく。

【意見・質問等】

最後の質問。まず一つ。今回の復興まちづくり計画について、八代市はあるコンサル契約をしていると思う。株式会社建設技術研究所。今回提出している計画もこのコンサルティング契約をしている、株式会社建設技術研究所が関わっていると理解して良いか。

【回答】

そのとおりである。

【意見・質問等】

今日、この場に出席しているのか。

【回答】

出席している。

【意見・質問等】

他の自治体では、色々なやり方があると思うが、このコンサルティング会社のスタンス、あり方、関わり方がそれぞれあるかと思う。他の自治体ではあらゆるレベルの小さな地区の懇談会にも担当者が出向いて、直接住民と向き合って、話し合って、質疑応答に答えたという話を聞いている。私はこの1年半、色々な会議に出ているが、直接話をしたことがない。このスタンスを今後も続けていくのか答えてもらいたい。

【回答】

懇談会の運営方法はそれぞれあるが、委託契約しているコンサルタントが説明を最初からして提案をしているという自治体もある。あくまでも私たちとしては、ご意見は行政が直接拝聴すべきだと思っており、運営も含めて行っている。コンサルタントは資料のとりまとめや、懇談会時にテーブルに入ってもらって直接住民の方の意見を聞いたりする等、計画づくりに寄与していただいている。

【意見・質問等】

輪中堤と宅地かさ上げについて。当初からこの2案が示されてきた。しかし地域全体のかさ上げが坂本の復興、住民の安全につながると思う。地域全体のかさ上げの案はどのように考えているのか。かさ上げは宅地のみでなく地域全体のかさ上げ。これは最初から示されていない。これが一番良いのではないだろうか、現在不思議に思っている部分。回答してほしい。

【回答】

今回の輪中堤もしくは宅地かさ上げについて。宅地かさ上げについてはあくまでも住宅地についてのかさ上げということで、制度上そういう建て付けとなっているが、例えば道路などについてもかさ上げを進めていくことも考えられるため、まずは集落でどの方が宅地かさ上

げをされるのかのご意向を踏まえて取り組みをさせていただきたい。先ほどもあった通り地区ごとの意見交換を進めていくので、またお呼びいただいて集落ごとに話し合いをさせていただければと思う。よろしくお願ひしたい。

【意見・質問等】

私の自宅もかさ上げ範囲になっており、イエローゾーンである。私の家が上がったら、隣の空き地、もともと住家があったところは下の土地になってしまう。平坦な土地でないとこんどは後から移住してくる人や、或いは帰ってくる人が、自分の費用でかさ上げをしなくてはならないというリスクがある。この際、地区全体をかさ上げしていつでも帰ってくるができる、或いは他所の地域から、坂本はそのまま家を建てることのできるいい場所だ、というような恰好にしておいた方が今後のためになると思う。何らかのイベント、平坦な土地であれば使えるが、凸凹の土地であれば使えないということで、個人的には地域全体のかさ上げを希望していた。ここにいらっしゃる出席者のみなさんもそうではないかと思う。当初から輪中堤と宅地かさ上げを打ち出しているが、これでは私たちが考えているような復興はできないと思う。ここで蒸し返して悪いと思うが、それが私の意見である。ここにいる皆さんで私と同等の意見である人は手を上げてください。このように地域の皆さんは、全体のかさ上げで考えていると思う。もう一点、輪中堤とした場合、ある程度の計画はできているのか。道路、或いは輪中堤の位置、範囲。そういう構想図があれば示していただきたい。

【回答】

坂本支所周辺の理解でいいか。

【意見・質問等】

各地区、すべての地区。

【回答】

現在輪中堤もしくは宅地かさ上げについては検討を進めている。現段階で明確にお示しできる図面はまだできていない。皆様の意向をお伺いしつつ、どういった形がいいのか、輪中堤がいいのか、またはかさ上げがいいのか、ご意見伺いながら計画を作っていくと考えている。ある程度、絵がまとまった段階で、スクリーンにも表示しているように個別に各地区での協議をさせていただいているが、そういった場でお示しさせていただきたいと思う。

【意見・質問等】

貴重な質問の機会に感謝する。質問時間をもっとたっぷりさせていただきたいと思う。安全性を高める防災力向上プロジェクトに関連して追加してほしい項目がある。基本高水の基準が上方修正された。皆さんご存知の事と思う。横石地点の基本高水の数字は出ているが、瀬戸石ダム地点の基本高水の数字を明確に示していただきたいのが一点と、プラス、越流想定構造を持たない、何回目になるのかこの質問は。瀬戸石ダムが越流したことで、しかもブラックアウトしたことで音信不通になっていた。これを下流の八代市の地方自治の観点から下流八代平野も大変危機的な状況だったと認識をもって、国に重大インシデントとして取り上げるように申し入れをしていただきたいという声を届けさせていただいているが、回答保留となっている。この点について、市長はどういう風に考えているのか、明確な回答をいただきたいということと、愛知県に地震と増水に関して安全な基準を満たしているとされている

入鹿池というダム貯水池にいて、それでもなお、何かあったときの、決壊したときのハザードマップを作って、万が一の時に備えて下流住民が逃げる時間と場所を確定する、ダム決壊を前提としたハザードマップを作成し公開したという実績が他県にある。基本高水で上方修正してしかもかなり危険な状態にあった瀬戸石ダムが、決壊するのではないかと、日奈久断層含めて複合災害として起こる可能性を見越して、下流八代平野の住民の生命財産も含めて、逃げれば助かるんだというような、必要な、ダム決壊のハザードマップを、安心、安全の地域づくりということで国と県と一緒に作って公開していただきたいという要望を上げさせていただきたい。こちらも含めて回答をよろしくお願ひしたい。

【回答】

瀬戸石ダムの越流の危険性の件だが、現在いろんなご意見が出ているということを知っている。対策等を含め検討、勉強をさせていただきたい。

基本高水について河川整備方針に示している件についてだと思うが、先日、ホームページにて河川整備基本方針を公表してそちらで記載している。計画の担当ではないため、細かい地点かということは頭に入っていないが、ホームページで記載させていただいている箇所が数値として公表している地点である。

【意見・質問等】

2点とも回答保留となっているという認識している。何度も質問していて、重大インシデントとしてということも含めて、回答をお願いしている。何度も同じ質問をしていて、いまさら「勉強をする」という段階ではない。それで安心、安全と言われてもちょっと納得できない。これから勉強会を開くのであれば、開かれた場で、瀬戸石ダムの■■■■も含めて会議をする、勉強会を開くのであればまだ納得できる場所である。4月に運用を再開すると聞いているが、その中で1年半放置されたというような状況だとみている。救助活動している人たちが、もし決壊したら大変な状況になっていたと、そういうリスクを見て、何度も質問させていただいている。さらに決壊したら八代平野も壊滅的な被害になっていたという状況だったと理解している。決壊をしないと言われても納得できない。実際にダムが越流したということは、ダムの専門家からしたらみんな青ざめる事象である。それを重大インシデントとして国に認定してもらえれば色々できることが変わってくる。なぜこれが重大インシデントとして指定されないのか、そもそも解せない話であるが、下流に住んでいる私たちとしては少しでも早く何かあった時の情報がほしい。実際に■■■■から八代市に越流していたと報告がきたのは17日と聞いている。本来、当日に市の担当課が把握すべき情報であるということで、興味を持って、どういう情報を認識されていたかということで、それで1回、2回、3回の緊急対策会議の議事録が見たいと思って尋ねたところ、これも作られていないと、住民の命を一体どういうふうにか大変疑問が残る形で進んでいる。1年半瀬戸石ダムの問題については放置されている状態であって情報を求めている。今回の質問も回答保留と、市長に回答をお願いするというのも、市長はマイクを握っていただけなかった。大変残念に思う。行政の長である市長にこれはかなり危ない事であると、リーダーシップをもってこれは改善を願いたいというふうに強く要望しておく。

【回答】

何度も話しているが保留、保留という事であったと認識している。瀬戸石ダムについては■■■■

■であるが、当初から瀬戸石ダムの話は出ていた。承知している。延期が繰り返されている状況であるため、■や国、県と協力して、なんらかの回答を出したいと思う。ご理解をお願いしたい。

【意見・要望等】

それはどのタイミングで回答をもらえるのか。

【回答】

年末でもあるため、早速明日連絡を取って、相手方とのスケジュール等もあるかと思うので、その調整ができ次第、連絡させていただく。

【意見・要望等】

開かれた場での議論をよろしくをお願いしたい。瀬戸石ダム問題に関してはブラックボックス的な状態になっていて、危機的な状況が起きた時に、唯一大規模な被害を受けるのは下流八代市全域である。昔の瀬戸石くずれの事故事例を河道閉塞による、八代平野の大規模水害という事故事例とほぼ被るのではないかという被害が予想される。これは具体的に予想され得る事象である。であるからハザードマップも実際過去に同じような事故事例が歴史を紐解けばあるため、ハザードマップ作りも大変容易かろうというふうに思う。後は現在の技術を用いて何分後に到着するのか、これは愛知県が実際に行っているため、これも作ることは容易かろうと思う。安心、安全なソフトの、防災力向上プロジェクトの一角に是非これを取り入れていただきたい。本当はそういう心配がないように瀬戸石ダムの水利権更新を認めないという形をもって、上流の人たちの治水安全度を高める瀬戸石ダム撤去というのが一番の良い案だと思うが、少なくとも4月から運用をするのであれば、4月にハザードマップを間に合わせるという目標設定をもって動いていただきたいというふうに切にお願いしたい。

【グループワーク】

・右岸側は鉄道が通っていたので活用されていた。今は代替バスが運行しており、八代から段、坂本までだったが、葉木まで延長された。助かっているが、朝と夜の2便だけになっている。帰りは夕方まで待っていなければならない。鉄道会社に運行便数を増やしてもらえるように交渉をお願いしたい。

・計画にも記載されているが右岸・左岸ともに避難ルートが整っていない。避難ルートの確保をお願いしたい。

・葉木、佐瀬野、破木も含めて孤立しないようにヘリポートが1箇所くらいあったらいいと思う。

・空き家もたくさんあるため、半数以上が空き家であるため、空き家も利用して子育て世代等の移住者確保を八代市で主導をしていただければと思っている。

・地区内にくま川ワイワイパークがあるが、半分が中谷で半分が藤本である。中谷の計画案には入っていたと思う。できれば藤本地区の計画内にも具体的な名称を入れてほしい。加え

てくま川ワイワイパーク周辺の家屋が解体され空き地になっている。もともとワイワイパークはすごくに賑わっていた。九州各地からサッカーの練習試合に来ていて、ゴールデンウィークなど季節がいい時には子ども連れの方が本当に多く来ていた。駐車場が足りなかったため周辺の住宅に停めていたということもあったので、できればその点も含めて行政として整備していただければにぎわいづくりにもなると思う。

- ・個別の宅地かさ上げではなく、地域全体のかさ上げを行ってほしい。

【回答】

地域全体のかさ上げについては各会で意見が挙げられている。個別の地区で、輪中堤もしくは宅地かさ上げに関して説明会や協議を行わせていただいている。宅地かさ上げのイメージとして、家だけぽつんと上がっている状況を浮かべられている方もいるかもしれない。宅地かさ上げはそういったものではなく、生活再建できるような形で行う予定である。しかし宅地かさ上げにあたっては、ご自宅や近隣の住宅、道路の状況等様々な状況が絡んできており、一概にエリア全体を上げるかどうか、を伝えることは難しい。地区ごとの説明会を開催して、皆様お一人お一人の再建の意向や、現地状況を踏まえて設計を行う。何回でも説明会を開催するので皆様の協力をよろしくお願ひしたい。

- ・空き家バンクの取り組みについて、坂本は解体されて空き地が多いため空き地の利活用を考えていただきたい。

・プロジェクトの中身に関して、生活利便施設の再開に向け、と記載があるが、医療機関だけはちゃんと医療機関の再建を明記してもらいたい。生活利便施設ではぼやけている。坂本に医療機関というのはとても重要。高齢者世帯が多い地域のため、医療機関再建するというふうに明記してもらいたい。

・坂本地区は解体が進んで、残っている方も少ない。災害時助かっている方は高台に住んでいた方が多い。高台に行く整備道路も計画に入れてもらいたい。高台に避難しても、そこに水が来ていたため、そこからの避難路の整備も併せて生活環境を見直してもらいたい。

・空き家のことだが、解体が進んでいないところもある。相続権等で手つかずになっているところもあり、地域住民ではどうしようもない。そういったことにも援助してもらえると良い。空き家があることで治安や衛生問題等でネックになると思う。今のうちに手を打つ必要があり、行政には一緒に対応してもらいたい。

・宅地かさ上げにあわせて、八代から坂本にかけて国道、県道の整備、宅地かさ上げをしてもらいたい。

・今回の水害で問題になったのは、道路が寸断されて坂本や球磨地区の被災状況が伝わらなかった、電波が通らなくて電話が繋がらなかったことがほとんどだと思う。

・地区ごとのかさ上げをしてもらいたい。かさ上げをするにしても、保育園、老人ホーム、運動公園も含めて考えてもらいたい。これから将来的に坂本地区の利用価値はかなりあると思う。

・川、山、公園、保育園、老人ホームもあり将来的に坂本地区は良いところなると思う。

・医療機関も含めて宅地かさ上げの上でつくってもらいたい。

・山の事に関して、プロジェクト1に、危険箇所の点検・整備とあるが、現在ある箇所の点検改善する方向だが、その次のステップとして小規模で土砂崩れの危険が少ない箇所で林業をしている林業家を迎える補助金や法整備等をまちづくりの一環として行っていただきたいと思う。小さな林道が避難道になり、山の整備等、日々行う上で利点になるのではないかと思う。

・子育て世代が住みやすくなる政策が、基本的な課題として挙がっていたが、プロジェクト内に一切明記がなかったため、実行して組み入れてほしい。一つは交通インフラが、子育て世代の通学、進学という点でかなり考えるにあたって、すごく重要な要素となっている。私も子供を育てていく上で、今後その点が保障されるかどうかで、坂本に戻れるかどうかにつながってきているため、その点をこういう方向でする、ここを確保する、というのをプロジェクトとしてしっかり組み入れて欲しい。子育て世代以外の高齢者含めすべての世代に対して有効な住みやすい地域になると思う。

・個人的な意見だが、空き家バンクの制度の活用とあるが、今まで上手くいっていないのに、そのままの状態を書いてあるため、上手くいくようにまた別の方法、手段をプロジェクトとして動かしてほしい。

・大門地区は最初から最後まで輪中堤、宅地かさ上げの話が挙がっていた。大門地区は数件かたまっている集落があり、帰ってきたいという方もいる。宅地かさ上げになった場合は、最低でもエリア一体でかさ上げを行ってもらえれば住民としてはありがたい。大門地区の要望としては、前回の会議と同様、全体のかさ上げをしてもらいたい。大門地区の説明会にて国職員から、地域全体のかさ上げはかなりハードルが高いという話を聞いている。可能性が低いかもしれないが国に頑張ってもらってできれば全体的なかさ上げを行ってもらえればいいかなと思う。

・藤本、大門地区は災害時に道路が分断されてしまった。孤立した。藤本小学校にみんな集まり、運動場も浸水してしまったため、着陸できないヘリコプターに釣り上げて救助してもらった。道路が寸断されたりすることはもうないと思うが、もしもの時に備えて運動場を盛り上げてもらってヘリポートにしてもらえたらと思う。

・災害公営住宅でいずれ住みたい方の要望で、旧小学校のどの辺りに立つのか、間取りをなるべく早めに教えてもらいたい。

・空き家バンク制度について、藤本にも空き家は何軒かあるが、家主に連絡が取れないことがあるため、どう対応したらよいか市職員に聞いたところ、住宅課に公民館長が来庁していただくと聞いてもらえれば対処してもらえると確認した。

・観光資源について、藤本には五社神社や天満宮、地藏さん等がある。天満宮や地藏さんは地域全体でお祭り等を行ってきた。地域の復興後の形を見通して、祭りを続けて、盛り上げて、できれば坂本駅からの観光ルートとして売り込んでいただきたいという要望が出た。

・藤本地区は公民館が流れてしまったため、藤本小学校の旧給食室を公民館として利用しているが、来年の3月の解体に当たり、また移転しなければならない。それにあたり土地はあるが色んな材料をいれるプレハブを藤本自力で見つけて立て直さねばならないのか。八代市の援助できないのかという意見が出た。

《中津道地区 参加者：26名》

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

・プロジェクトの具体的な取り組みについて、調査・設計・実施のそれぞれの具体的な時期も示していただく必要があるのではないか。

・防災無線や衛星電話等の整備とあるが、西鎌瀬では現在のスピーカーの音が聞こえにくいような状況がある。防災無線等を各箇所に整備するか、あるいは、皆さん携帯電話をお持ちなので、携帯電話を活用した施策も検討いただければと思う。

・中津道社会教育センターが災害時のヘリコプター臨時発着場の役割を担うとなっているが、中津道社会教育センターに向かうための道路が急勾配な道となっているため、勾配を緩やかにするなど、アクセスしやすくなるような対応をお願いしたい。

・プロジェクト3には貴重な地区自然の保全とあるが、具体的な取り組みには保全に関する記載がないので、何らかの書き込みが必要ではないか。また、個人的な思いとしては、取組期間には確認・検討までしか記載されていないが実施まで含めていただければと思う。

・空き家の有効活用については、自分で空き家を管理している方もいればそうでない方もいる。空き家を貸してもよいなどといった意向が分からない物件が多いので、まずは空き家の意向調査をお願いしたい。

・県道については応急・復旧対策として鉄板を引いているが、滑りにくいため早急な改修工事をお願いしたい。

・有害鳥獣の対策については、猪や鹿以外に猿も最近増えてきており、野菜などの農作物の被害が発生している。鳥獣の駆除が出来ないか検討をお願いしたい。

・砂防ダムについては、溜まった砂利を取り除きたいと思っているが、そこに行くための作業道路が無いため、早急に作業道路を整備していただきたい。

・宅地かさ上げをするようお願いをしているが、宅地かさ上げをする場所・しない場所で凸凹になってしまうと、新たな取り組みをする際にやりにくくなるので、全体をかさ上げしていただきたい。

・昨年の豪雨では、ヘリコプターが着陸出来ず、ホバリングした状態で救助活動を行っていた。ヘリコプターが着陸できる場所を確保してほしい。

・鎌瀬橋を中心に河川に降りる道路の整備をお願いしたい。また、その道路を整備する前に、鎌瀬橋から市ノ俣川までの土砂撤去が行われていないので、まずは土砂撤去からお願いしたい。

・鎌瀬橋から市ノ俣川までの堤防の計画がどうなっているのか説明をお願いしたい。

・鎌瀬橋とそこに取り付ける道路が何mかかさ上げされるということなので、付近の宅地についてもかさ上げをお願いしたい。

・中津道社会教育センターの所に災害公営住宅が整備されるようなので、合わせて道路整備もお願いしたい。急勾配になっているので、安全に通行できるようにしてほしい。また、国道と災害公営住宅の間の取り付け道路が通りにくい状況なので、拡幅をお願いしたい。

以上